

令和7年度事業報告

(令和7年4月1日から令和8年3月31日まで)

全 体 概 要

I 概 要

令和7年度は、大阪・関西万博が開催されて大いに盛り上がり、円安の影響も受け、訪日外国人客数は4,200万人を超え、観光消費額は9.5兆円といずれも過去最高となるなど、飛躍した年であった。

昨今の中国・中東など、世界情勢の動向を注視する必要があるが、京都においては国際会議の開催・誘致件数も着実に増えてきている。このような状況の中、京都では、特定の時期・時間・場所へ観光客が集中することによる地域住民への影響や観光業界の担い手不足が課題となり、関係者が連携して観光客の分散化やマナー啓発及び人材確保等に取り組んできた。

当財団においても、MICE開催に際して開催時期や見学先などのコントロールにより、分散化に努めるなど、行政や関係機関と協力して課題解決に向けた取組を進めてきた。

また、文化庁京都移転を受け、文化庁及び国民文化祭等と連携した「古典の日」推進事業や、京都らしいMICE開催支援等を通じ、先人たちが築いてきた「ほんまもん」の継承・発展と、文化と観光・経済の好循環創出に努めた。

さらに、大阪・関西万博についてはオール京都の取組に参画するなど、国際的な文化交流拠点・京都の魅力向上と持続的発展への寄与を図った。

以下、重点施策ごとに令和7年度の取組状況をまとめた。

II 4つの重点施策別の取組状況

1 古典の日推進事業の充実

令和7年度は、翌年に「寛永行幸400年」を迎えることや江戸時代の出版文化を描いたNHK大河ドラマの放送もあり、各事業において江戸時代の文化にスポットを当てた構成とし、幅広い古典ファンの獲得を目指した。

「古典の日フォーラム」では、文化庁との共催及び国民文化祭開催県との連

携を継続し、「古典の日」の全国への普及に努めた。「朗読コンテスト」や「街かど古典カフェ」においては、次世代への継承、幅広い世代への広がりを意識して取り組んだ。

またポッドキャストで配信している「山本淳子の源氏物語解説 朗読とともに」を、令和8年4月から配信再開する準備を進め、3月には山本先生による「街かど古典カフェ」を開催しPRに努めた。

「古典の日文化基金賞」事業は、従来の顕彰としては最後の年となり、「文学・思想」「伝統芸能・音楽」「美術・生活文化」の分野で3個人を、「未来賞」は、次代の日本文化を担う若者たちの3団体を顕彰した。令和8年度からは「村田記念 古典の日文化基金未来賞」となる。

広報活動の一環として、京都市内全区役所へ働きかけ、ロビー等に古典の日のポスター掲示を実現したほか、区役所が実施する区民向けの講座との連携を図った。また、古典朗読のすそ野を広げる取組として、11月に開催されたブックパークの会場において、古典の日朗読コンテスト受賞者による古典朗読会を実施した。

2 MICE・国際観光を通じた京都経済への貢献

国際会議などMICEの回復と持続可能な開催に向け、海外プロモーション活動としては、フランクフルトでの「IMEX Frankfurt 2025」に京都ブースを出展するとともに、シンガポールでの「The Meeting Show Asia Pacific 2025」、メルボルンでの「AIMEX 2026」といった世界的なMICE商談会にも出展し、それぞれ京都での開催につながるPRや商談を行った。国内では関西近辺の大学訪問などを重ねて主催者への働きかけを強め、大型国際会議の誘致としては、過去最高となる25件に成功した他、世界的なMICEメディアと連携した商談会の開催を継続するなど、着実に誘致活動を充実させてきた。

地域貢献としては、昨年度に引き続き、STSフォーラムにおいて、学生と参加者の交流機会の創出や市民公開講座の実施による最新知見の共有、地産地消などのモデル事例を創出した。その他「サステナブルなMICE開催支援補助制度」を活用し、環境配慮と併せて、市民公開講座の実施や、学生の国際会議参加を促し「大学のまち京都」の強みを活かす人材育成を図った。

また、STSフォーラム、京都スマートシティエキスポ2025への運営協力をはじめ、京都ならではの企業ミーティングや展示会・商談会への支援を行い、京都経済全体への貢献に努めた。

さらに、観光庁「MICE開催地としての魅力向上事業」の採択を受け、滋賀・

奈良と連携した付加価値の高いエクスカージョンメニューの開発を行い、各都市との連携体制を構築するなど、広域・他県連携にも取り組んだ。

大阪・関西万博を契機とし、産業の強みや府内各地の文化や観光資源などの魅力を国内外に広くアピールするオール京都の組織に参画し、積極的に推進した。併せて、京都市、関係団体と連携し、訪問先の整備やPRツール制作、視察ツアーなどを実施し、地元企業との交流を促進する取組を行ったほか、昨年度公開した脱炭素に向けたガイドライン・脱炭素に取り組むサプライヤーリスト、CO2算出ツールを活用し、環境に配慮した MICE 開催を推進した。

3 文化・観光・経済の好循環促進

文化と観光を融合する視点から、MICE 会場として社寺・文化財等を活用する「ユニークベニュー」の提供に注力しており、引き続き充実・拡大に努めるとともに「京都らしいMICE 開催支援補助制度」による伝統産業品の活用、京町家や地元商店街への学生訪問など、京都の文化・地域振興と MICE 参加者の満足度向上を図ることで、文化・観光・経済の好循環を促進した。加えて、京都市観光協会と共同して「四季彩京都」を発行し、社寺文化財の特別公開情報を提供した。

京都迎賓館支援事業においては、開館20周年を迎え、国公賓の接遇機会を増やすため、外務省とも連携し、国公賓の招聘機関等向けのウェブページを制作するなど、同館の価値を広く発信する取組を行った。また、参観者の来館記念としての記念品販売を通して、伝統工芸品の需要拡大を図った。

なお、MICE による京都の伝統文化・環境保全への貢献を目指す「京都MICE 基金」については、主催者に働きかけ会場への募金箱の設置を行う等、基金積み上げに努めた。

4 関係団体との連携推進・組織強化

「古典の日フォーラム」は文化庁との共催事業となった令和4年度から、本フォーラムの中で国民文化祭開催地の文化を紹介し、各地と連携し「古典の日」のさらなる全国展開を図ってきた。沖縄県に始まり、石川県、岐阜県、令和7年度は長崎県の国選択無形民俗文化財の「命婦の舞」を上演、朗読コンテストや文化基金賞の参加・対象者を広く全国から募り、古典の日の推進を通じた全国の文化振興への貢献を目指した。

「大阪・関西万博きょうと推進委員会」には共同代表、共同事務局として、「文

化庁連携プラットフォーム」には構成団体として、気運醸成や認証事業などを行った。「寛永行幸四百年祭実行委員会」には事務局として参画し、様々なオール京都の取組に貢献するとともに、府・市・経済団体との連携を強化した。

また、京都市観光協会や京都府観光連盟と連携し、観光の質を高める取組や担い手確保など事業の運営・実施に当たった。

さらに、「会員の集い」の実施にあたっては、前年度と同様、賛助会員PRブースの充実に加え、文化庁や迎賓館関係者も招待する等、会員相互及び関係機関との交流を深めた。

賛助会員に対しては、当財団の活動報告や個別の状況に応じた丁寧な対応に努めるとともに、京都文化振興友の会についても、見直しを図り、新規会員の獲得に向けた取組を強化した。

部 門 別 概 要

I 文化交流発信事業（公益目的事業）

1 古典の日推進事業

（1）「古典の日」普及・定着のための事業

本年に「寛永行幸400年」を迎えることや昨年NHK大河ドラマが江戸時代の出版文化を描いたことから、江戸時代にスポットを当てた企画を進め、幅広い古典ファンの獲得に努めた。「古典の日フォーラム」では江戸時代の庶民の文化を取り上げ、「朗読コンテスト」では江戸時代の文学を課題にしたほか、街かど古典カフェでは落語家の桂吉坊氏に古典芸能と落語についてお話しいただくなど多彩な文化事業を展開した。

①「古典の日フォーラム 2025」

本年の「寛永行幸 400 年」に向けて、「花開く町人の文化」をテーマに、直木賞作家の澤田瞳子氏に、絵画が江戸以前の権力者のためのものから町民の文化として広まっていった背景を小説家ならではの観点から史実を交えてご講演いただいた。その後は、江戸時代に人気を博した人形浄瑠璃の上演に続き、人形遣いの吉田簀紫郎氏に、三宅アナウンサーがお話を伺った。また、文化庁との共催事業である国民文化祭との連携では、令和7年度開催地である長崎県の国選択無形民俗文化財「命婦の舞」を披露していただいた。なお今後を見据えて一般入場を有料（1,500円）としたが、昨年度を超える入場数となった。



◇開催日 令和7年11月1日（土） 13時～16時

◇会 場 ロームシアター京都メインホール

◇参加者 1,013名（うち有料826名）



【第1部】

・テーマ曲「古典の日燦讚」演奏と「古典の日宣言」

演奏 大谷祥子と六条山楽坊

箏／大谷 祥子 三好舞依 西原梨紗 高田智生 名和香菜子 碓井志音 出水歩由子 赤木美奈

発知彩弥

ピアノ／藤林 由里 胡弓／菊武粧子 尺八／饗庭 凱山 バイオリン／平山 美萌

太鼓・鳴り物／祝丸

宣言 長谷川聖花（第16回古典の日朗読コンテスト「中学・高校生部門大賞」受賞者）

・開催者挨拶

村田純一（古典の日推進委員会会長）

都倉俊一（文化庁長官）

・来賓祝辞

伊吹文明（元衆議院議長）

勝目康（衆議院議員）

・第40回国民文化祭との連携

大石賢吾（長崎県知事）メッセージ 収録映像放映

命婦の舞（国選択無形民俗文化財）

【第2部】「江戸時代の文化」

・講演「花開く町人の文化」澤田瞳子（作家）

・人形浄瑠璃「『義経千本桜』二段目 知盛幽霊の段」

太 夫 竹本織太夫

三味線 鶴澤清志郎

人 形 吉田簀紫郎

「アフタートーク 文楽の魅力」

吉田簀紫郎

聞き手 三宅民夫（元NHKアナウンサー）



② 「第17回古典の日朗読コンテスト」

「江戸の文学～印刷・出版で花開いた多彩な文化～」をテーマに『おくのほそ道』『近松門左衛門』『雨月物語』『南総里見八犬伝』を課題作品とした。全国から【中学・高校生部門】201名【一般部門】226名、合計427名の応募があり、1次・2次審査の通過者14名が11月29日に行われた公開最終審査会に出場した。



◆フォーラム「古典の世界を読む 2025」公開最終審査会と表彰式

◇開催日 令和7年 11 月 29 日（土） 13 時～16 時 05 分

◇会 場 金剛能楽堂

◇参加者 215 名

録音音源による審査を通過した中学・高校生部門から6名、一般部門から8名の14名が最終審査会に出場した。

【一般部門】大賞受賞者は、北海道出身の中村和恵さん。



【中学・高校生部門】で大賞を受賞した平安女学院高等学校の大八木彩衣さんは、会場の皆さんの投票で選ぶ「みんなの感動賞」のダブル受賞となった。



コンテスト審査の合間には、インド古典舞踊の優美なる踊りと鈴の音で異国情緒の世界へと皆さんを誘った。また最終審査会に出場した中学・高校生へのインタビューとして、朗読に向かう姿と将来の夢について、司会の星野アナウンサーが話を伺い、会場が笑顔に包まれた。

本コンテストの【中学・高校生部門】大賞と京都府高等学校文化連盟会長賞受賞者が、令和7年 12 月 14 日に開催された全国高校生伝統文化フェスティバルで朗読を披露した。

③ 「街かど古典カフェ」

第3回古典の日文化基金賞[伝統芸能・音楽]分野を受賞された落語家、桂吉坊氏に日本の芸能の成り立ちから変遷について解説いただいた。参加者は博識高く軽妙なトークに引き込まれ、会場は笑いに包まれた。

- ◇会 場：京都芸術センター 大広間
- ◇日 時：令和7年5月23日（金）
13時30分～15時
- ◇「落語と伝統芸能“笑い”の関係」
- ◇参加者 57名



「街かど古典カフェ」Ⅱ

ポッドキャストで配信している「山本淳子の源氏物語解説 朗読とともに」で解説を担当する山本淳子氏を講師に開催。「玉鬘」から「真木柱」までの十帖は、「玉鬘十帖」と呼ばれており、源氏物語における位置づけについて、時には笑いを交えながら、生解説をお楽しみいただいた。

- ◇会 場：京都経済センター3-F 会議室
- ◇日 時：令和8年3月17日（火）
13時30分～15時
- ◇「山本淳子の源氏物語解説」
～あなたは誰が好き??～
- ◇参加者 55名



（2） 情報発信・広報活動等

- ・京都市内の全区役所・支所に古典の日の広報協力を依頼し、古典の日のPRとポスター掲示などを実施していただいた。今後、区役所が実施する区民向けの講座等の連携協力も進めることとなった。
- ・11月8日に梅小路公園で開催されたブックパークの会場において、古典朗読会を実施した。過去に朗読コンテストで受賞された2名に朗読を披露する場を提供するとともに、来場された方々に古典朗読の良さを感じ取っていただいた。

・「古典の日」ホームページ

全国に向けた「古典の日」の発信と古典の普及に努めた。

・古典の日絵巻第十四巻

「古典の魅力を伝え隊！～高校生が読む古典の世界～」

京都嵯峨野高等学校「京・平安文化論ラボ」に所属する皆さんに「古典の日絵巻」を担当していただいた。高校生の目線で読み解いた古典の世界を新しい発見とともに披露いただいた。（京都嵯峨野高等学校

「京・平安文化論ラボ」は第3回古典の日文化基金賞未来賞を受賞）



- 令和7年[4月] 京・平安文化論ラボの活動
 [5月] 光源氏の母 桐壺更衣
 [6月] 古事記って何？
 [7月] 源氏物語の輝く華
 [8月] 紫の上との出会い
 [9月] 枕草子のゆかりの地へ
 [10月] 教養と実践を融合した探究
 [11月] ツンデレお姫様 葵の上
 [12月] 蓬のなかに佇む花 末摘花
 令和8年[1月] 平安のロミオとジュリエット～光源氏と朧月夜～
 [2月] 明石に咲いた才媛
 [3月] 京・平安文化論ラボの挑戦 ～生徒たちの舞台裏～

・ポッドキャスト「山本淳子の源氏物語解説 朗読とともに」

朗読に解説を加え、親しみやすい内容のコンテンツで古典ファンを増やすことにつなげようと進めている事業。京都先端科学大学の山本淳子教授の解説と斉藤由織氏の朗読で、産経新聞のポッドキャストにおいて（一社）伝統文化交流協会との共同事業で配信中。5月の「少女」で一旦休止していたが、令和8年度から再開予定。



◇配信内容（令和8年3月現在）

- ①桐壺その1 ②桐壺その2 ③帚木④空蝉⑤夕顔その1 ⑥夕顔その2
 ⑦若紫⑧末摘花⑨紅葉賀⑩花宴⑪葵その1 ⑫葵その2 ⑬賢木⑭花散里
 ⑮須磨⑯明石⑰霽標⑱蓬生⑲関屋⑳歌合㉑松風㉒薄雲㉓朝顔㉔少女

（3）共催事業、後援、ロゴ・シンボルマークの使用許可申請数

【共催申請件数】2件【後援申請件数】57件

【ロゴ・シンボルマーク申請件数】9件

（4）「古典の日」普及・推進活動及び広報活動等

・ホームページアクセス数：2.6万件

（令和7年4月1日～令和8年3月31日）

・「第3回古典の日フォーラム 美しき愛知」

「日本の伝統文化をつなぐ実行委員会」
（名古屋市）の主催で開催。地元高校生
21名の箏曲による幽玄な調べ、古典の日
宣言に続き、『古今和歌集 仮名序』『方丈
記』『平家物語』『曾根崎心中』の原文朗読
で、朗読とは身体と結びついた活動である
ことを表現。プロによる素浄瑠璃も披露さ
れた。



古典の日推進委員会が後援し、当日は出席し祝辞を述べた。

◇会 場：名古屋能楽堂

◇日 時：令和7年11月3日（月・祝）

2 古典の日文化基金賞事業

日本の古典文化の研究、普及、啓発活動などに貢献した個人、法人、団体を
顕彰し、古典の日の推進に寄与することを目的として設立した「古典の日文化
基金賞」第5回授賞式を令和7年9月3日に実施した。「文学・思想」、「伝統
芸能・音楽」「美術・生活文化」については分野毎に各1件、次世代の日本文
化を担う若者たちを顕彰する特別賞「古典の日文化基金未来賞」は、3団体に
賞を贈呈した。

◆第5回「古典の日文化基金賞」授賞式

◇開催日 令和7年9月3日（水）13時～16時

◇会 場 京都コンサートホール アンサンブルホールムラタ

◇参加者 361名



・受賞者

【文学・思想】山本淳子（京都先端科学大学教授）

【伝統芸能・音楽】木ノ下裕一（木ノ下歌舞伎主宰）

【美術・生活文化】中田昭（写真家）

【古典の日文化基金未来賞】

京都光華中学校/高等学校〔伝統文化教育〕

能勢人形浄瑠璃鹿角座

ひよこの会童謡合唱団

◇概要

・テーマ曲「古典の日燦爛」と「古典の日宣言」

演奏 大谷祥子と六条山楽坊

宣言 西牟田悠里衣（第16回古典の日朗読コンテスト〔京都府高等学校文化連盟会長賞〕受賞）

・彬子女王殿下おことば（司会の荒山沙織 代読）

・主催者挨拶 村田純一（古典の日文化基金賞顕彰委員会会長）

・来賓祝辞 都倉俊一（文化庁長官）

・贈賞式

それぞれの活動の紹介の後、賞状と盾、副賞を授与した。

・講評 臈谷壽（古典の日文化基金賞選考委員会副委員長）

・第2部「～佳人が魅せる「古典かたりの世界」～」

①筑前琵琶「那須與市」田中旭泉、中垣葵、中垣結（橘流日本橘会）

②仕舞「菊慈童」味方梓（観世流能楽師）、青木真由人（観世流能楽師）

③女房語り「京ことばで聞く源氏物語『紅葉賀』」山下智子（声優・俳優）



◇村田記念 古典の日文化基金未来賞の創設

今年度第5回を迎えた「古典の日文化基金賞」は、これまでの実績を検証した結果、令和8年度から、日本の次世代を担う子ども・若者たちの古典文化活動と、それを指導・支援する個人、法人、団体を顕彰する「村田記念 古典の日文化基金未来賞」を創設し深化することとした。

これからもジャンルを問わず、学校で、職場で、地域で、古典文化に関する活動に励む皆さんを応援していく。

3 寛永行幸四百年祭実行委員会の事務局運営

2026年が寛永行幸から400年を迎えるにあたり、文化庁連携プラットフォーム内に設置された、「寛永行幸四百年祭実行委員会」に参画し、広く寄附金の募集を行うなど当財団が事務局運営を担う。

4 京都迎賓館支援事業

京都の伝統技能の粋を集めて建設された京都迎賓館で行われる外国賓客の接遇や参観事業の支援を通して、京都の文化を代表する伝統技能やおもてなしの文化を普及する事業を行った。

特に今年度は、開館20周年の節目の年を迎え、大阪・関西万博が開催されたことから、同館の価値を広く発信する取り組みを行った。

(1) 外国賓客のおもてなし

外国賓客を京都迎賓館で接遇する際に、地元の花街や料亭の協力を得ながら、京都が世界に誇る京都の伝統芸能や京料理でのおもてなしを実施しているが、残念ながら令和7年度は実施機会がなかった。

今後の接遇利用促進のため、京都迎賓館において実施された「開館20周年記念 館内視察・日本文化体験特別ツアー」に協力し、在関西領事館等の総領事・領事らに京都迎賓館及び京都について理解・関心を深めていただいた。

◇特別ツアーの概要

日 時 令和7年7月9日(水)

内 容 館内見学、文化体験(日本舞踊鑑賞)、記念撮影等

参加者 在関西総領事・領事、名誉総領事・領事等約30名

(2) 参観支援・啓発関連

① 京都迎賓館接遇紹介ウェブページの作成・公開

開館20周年を機に、京都迎賓館における国公賓接遇の機会促進を図るため、京都迎賓館とも連携し、国公賓の招聘や行程決定に関わる機関向けに、迎賓館での接遇と京都の魅力を紹介するウェブページを制作し、公開した。

◇サイトの概要（当財団公式サイト内）

名称 京都迎賓館へのご案内

URL <https://www.hellokcb.or.jp/geihinkan/>



トップページ

特 長

- ①各部屋を写真付きで紹介。360° 画像により、館内の様子をわかりやすく紹介
- ②地元によるおもてなしのモデル例や、過去の接遇の写真を紹介
- ③歴史文化視察・体験や産業視察・学術交流が可能な視察先を紹介

② もてなし・しつらいプロデュース事業

京都迎賓館における外国賓客接遇の際、しつらいの一つとして活用するいけばな文化の継承・発展のため、京都いけばな協会への支援を行った。

また、迎賓館での下記の外国賓客の接遇に際し、しつらいアドバイザー（嵯峨美術大学元学長 佐々木正子氏）の指導の下、季節や国に応じて工夫を凝らしながら、京都府京都文化博物館、京都市京セラ美術館、京都府立堂本印象美術館などから、地元美術工芸品を借用して展示し、賓客が迎賓館での滞在時間を楽しんでいただけるよう、支援を行った。

令和7年11月 ヨルダン・ハシミテ王国上院議長

令和8年 3月 カナダ・上院議長

③ 京都迎賓館一般公開への支援事業

京都迎賓館一般公開に関する周知チラシの作成を行うとともに、京都の玄関口である京都駅に京都府・京都市が共同で設置する「京都総合観光案内所（京なび）」などでチラシの配布を行うなど、一般公開への支援を実施した。

また、最寄り私鉄駅において、ポスター掲示やデジタルサイネージによる広報を行ったほか、京都を中心に約700のホテル・旅館に置かれる観光情報誌への広告記事の掲載により、京都を訪れる観光客などに対して広く発信した。



京阪出町柳駅サイネージ広告

④ 開館20周年特別企画や「京都迎賓館文化サロン」への協力

京都迎賓館開館20周年を記念した特別企画や、日本の歴史・文化に関するテーマ毎に、京都迎賓館にゆかりのある講師による講演や特別なガイドツアーを体験できる特別企画「京都迎賓館文化サロン」について、引き続き、企画・広報等協力を行った。

◇開館20周年特別企画

第1弾 開催日 令和7年6月19日（木）

内 容 芸妓・舞妓による日本舞踊の披露他

第2弾 開催日 令和7年8月 7日（木）

内 容 生田流箏曲の演奏他

◇第12回京都迎賓館文化サロン『空間美』

開催日 令和8年3月12日（木）

内 容 京都迎賓館設立時に内装設計に携わられた一級建築士
井上順一郎氏による講演他

5 文化振興に資する発信事業

（1）京都創生推進フォーラム事業

京都市から委託を受け「京都創生（歴史都市・京都の魅力に磨きをかけ、世界へ発信していく取組）」の意義を周知するため、会員に向けた情報発信を行うホームページの管理・運営するほか、京都市が海外から寄附を募る事業の支援などを実施した。

（2）四季彩京都の発行

社寺・文化財特別公開情報を掲載した「四季彩京都」について、引き続き、京都市観光協会との共同発行を年2回行い、更なる紙面の充実や効率化を図りながら、関係団体と連携した発信事業に取り組んだ。

Ⅱ 国際観光コンベンション事業（公益目的事業）

1 コンベンション（MICE）事業

（1）プロモーション事業

○ 海外プロモーション活動

- ① 2025年4月16日～4月17日、シンガポールにて開催された「The Meetings Show Asia Pacific 2025」に京都ブースを単独出展した。本イベントは世界中からMICE業界のプロフェッショナルが集結するアジア太平洋地域最大級の商談会で、案件を保有する招待バイヤー（PCO/DMC/旅行代理店/イベントプランナー/学術集会事務局等）と連日、終日にわたり36件の商談を実施し、京都でのMICEを提案するための、ユニークベニュー、アクティビティ、ホテル、MICE施設などの情報提供を行った。

- ② 2025年5月20日～5月22日、ドイツ・フランクフルトにて開催された「IMEX Frankfurt 2025」に昨年に引き続き、京都ブースを出展した。（共同出展：国立京都国際会館、ヒルトンホテル）前年の12,059名を上回る13,335名のミーティング及びイベント業界のプロフェッショナルが世界各国から参加した。京都ブース全体では、90件の商談を実施した。クライアントから人気の高い、京都を開催地としてインセンティブ旅行のプラン造成を計画しているバイヤーや、京都の最新情報を希望するリピーターのバイヤーと商談し、具体的な案件取得に繋がった。



- ③ 2026年2月9日～11日、オーストラリア・メルボルンにおいて開催されるアジア太平洋地区最大規模のMICE商談会「AIME 2026」に京都ブースを出展した。
AIME はアジア太平洋地域の MICE 産業を結ぶ重要なイベントであり、5,000 名以上の国内外の MICE 関係者が参加した。
今回の商談会では、オーストラリアを中心に、世界中から招待バイヤー（案件保有者）と34件の商談を実施し、バイヤーに対して京都でのMICE を提案するためのユニークベニュー、アクティビティ、ホテル、

MICE 施設等の情報提供を行った。

○ 国内プロモーション活動

これまでの主催者訪問の実績などをベースに、新たに70件超の主催者と具体的な会議の誘致や助成に関するやり取りを行い、引き続き、当財団の支援活動の広報・フォローアップを実施した。この結果、大型国際会議を含め、本年度の誘致成功件数は25件となった。

○ 商談会の開催

昨年に引き続き、3回目となった「KYOTO MICE TRADESHOW AUTUMN 2025」を2025年10月29日～31日に開催した。今年度は「岡崎MICE」をテーマとし、国内外から9カ国、25名の、国際会議や企業主催の会議・インセンティブツアーなどの開催決定権を持つ有力なバイヤーと、20社の京都のMICE事業者が岡崎に集い商談を実施したほか、国立京都国際会館の視察に加え、岡崎エリアのファムツアーや、ネットワーキングイベントなどを実施することにより、京都・岡崎の魅力をアピールし、MICE誘致/開催を促進した。

(2) 開催支援事業

① 政府関連特定会議等の京都開催への運営協力

[第22回科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム(STS フォーラム)]

公開シンポジウム	2025年10月4日	201名参加 (現地+オンライン開催)
歓迎レセプション	2025年10月6日	727名参加 (国立京都国際会館)
京都エクスカーショ	2025年10月6日	23名参加

2025年10月5日～7日、国立京都国際会館において開催された第22回科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム(STS フォーラム)に対して、STS フォーラム支援京都実行委員会に参画し、STS 事務局と連携し、レセプションの実施に加え、地元学生の生け花や書の作品展示を通じて、参加者と学生が交流できる機会も創出した。また、STS フォーラム登壇者や地元企業関係などによる府民・市民向けの公開講座の実施や、参加者を対象に、寺院での座禅体験や酒蔵での日本酒の醸造について学ぶエクスカーショ

ムの開催支援だけでなく、国際会議の開催を通じた、府民・市民への還元
に資する取り組みを行った。

② 京都スマートシティエキスポへの協力等関西文化学術研究都市推進への参画

2025年10月2日～3日、けいはんなオープンイノベーションセンター(KICK)などにおいて開催された京都スマートシティエキスポ2025 に対して、運営協議会などに参画するとともに、会場における京都文化の披露に協賛を行うなど、開催支援を行った。

また、大阪・関西万博にあわせて開催された「けいはんな万博 2025」の運営協議会に参画し、同万博における国際会議開催への支援やイベントへの広報協力など、関西文化学術研究都市の発展とMICE拠点形成に資する取り組みを行った。

③ MICE案件・展示会(E)の開催支援

京都の都市格に相応しい大手企業や組織が主催する多くのMICEの京都開催を支援した。

京都国立博物館を13日間貸し切って実施されたハイブランドによる展示・商談会や、英国投資家による記念式典の会場として、オフサイトベニューを提案し、貸切パーティーが開催された。

5月には寺社を貸し切って開催されたアメリカのIT企業による業績表彰式が実施され、本国より約250名が参加した。本案件においては、イベント開催に加え、京都市への寄付や滞在中の市施設への貢献活動なども行われ、京都開催における新たなMICEのモデル事例となった。

さらに、11月には約160名が参加するアメリカの保険会社によるインセンティブツアーが開催され、市内ホテルへの宿泊及びレセプションパーティーの実施に加え、「海の京都」丹後エリア(伊根町、天橋立)への訪問も行われた。本ツアーを担当したDMCは、2024年度「KYOTO MICE TRADESHOW」に参加しており、同商談会を通じて構築された京都の宿泊施設やサプライヤーとのネットワークが、誘致から開催まで繋がった事例となった。

また、万博開催期間中にはイタリア館と連携し、同国ラグジュアリーブランド関係者に対し、京都でのMICE開催の魅力をPRした。

なお、令和8年度に向けては、ラグジュアリーホテルや神社仏閣を貸し切ったMICE案件の開催が複数決定しており、次年度以降の開催に向けた継続的な支援を実施している。

④ オフサイト・レセプション等の企画・提案

（公社）京都市観光協会や賛助会員事業者と連携しながら、開催地ならではのユニークな施設・会場（オフサイト・レセプション）の企画・提案を行った。

（３）京都MICE基金の運用

国際会議などMICEによる地域貢献促進のため、京都府・京都市などの協力のもと創設した「京都MICE基金」の運用を行った。

本基金の運用を通じて、京都の多彩な文化・芸術や豊かな自然環境、美しい景観の保全・継承活用を図り、京都の魅力や人々の暮らしの向上、MICE・観光振興及びSDGs達成に寄与する取り組みへの支援・貢献を行う。

（４）各種支援制度の運用状況等

① 助成金

（ア）大規模国際コンベンション開催支援助成金の活用（京都市）

[申請案件（2025年度申請(認定)分）] 9件

会議名	参加者	開催予定年度	認定額 (万円)
第12回世界緑内障会議	3,500名	2027年度	300
第32回化学と生命科学の微小システムに関する国際会議	1,200名	2028年度	300
RNA2028	1,300名	2028年度	300
ISMAR2029	600名	2029年度	300
LUPUS2029	2,000名	2029年度	400
世界集中治療会議	10,000名	2029年度	400
WONCA2029	8,000名	2029年度	500
ISSCR2029	4,000名	2029年度	600
第35回国際音声言語医学会（IALP）	1,000名	2031年度	300

[2025年度交付案件] 5件

会議名	参加者	開催日程	認定額 (万円)
第13回いけばなインターナショナル世界大会	987名	2025年 4月25日 ～4月28日	300

世界超音波医学生物学学術連合第20回 国際会議	5,874 名	2025 年 5 月 29 日 ～6 月 1 日	400
第 22 回有機合成指向有機金属化学国際 会議	783 名	2025 年 9 月 1 日 ～9 月 5 日	300
第 15 回国際先天代謝異常学会 (ICIEM2025)	2,800 名	2025 年 9 月 2 日 ～9 月 6 日	300
第 15 回国際口蓋裂・頭蓋顔面異常学会	1,300 名	2025 年 10 月 20 日 ～24 日	300

- (イ) 京都市MICE開催支援助成金の活用（京都市）
 利用件数：60 件 （うちリピート加算分 12 件）
 支援金額：19,448,133 円
- (ロ) 「京都らしいMICE開催支援補助制度」の活用（京都市）
 利用件数：53 件
 （うち伝統産業製品 15 件、ユニークベニユー 22 件）
 支援金額：32,451,867 円
 （うち伝統産業製品支援 6,477,736 円、
 ユニークベニユー支援 18,000,000 円）
- (ハ) 「サステナブルなMICE開催支援補助制度」の活用（京都市）
 利用件数：54 件
 支援金額：12,000,000 円
- (ニ) 大規模国際コンベンション誘致支援助成金の活用（京都市）
 利用件数：3 件
 支援金額：2,600,000 円
- (ホ) 「京都府MICE開催支援助成制度」の活用（京都府）
 利用件数：19 件
 支援金額：4,306,880 円
 （コンベンション：10 件 2,620,000 円

分科会：1 件 40,000 円
エクスカーション：8 件 1,646,880 円)

- (※) **M I C E 向け京都伝統産業製品貸出制度の活用**
利用件数：3 件

② その他の支援サービス

- (ア) 京都イメージバンクの活用

利用件数：45 件

- (イ) 公開シンポジウム等広報支援制度

利用件数：2 件

- (ロ) 京都開催 PR 用バナー貸出制度

利用件数：4 件

- (ハ) 京都市 M I C E PR 動画の貸出・提供

利用件数：13 件

- (ニ) 京都ストックフッターライブラリ映像の貸出・提供

利用件数：19 件

- (ホ) 各種広報印刷物等の提供

利用件数：35 件 (京都観光案内地図(日英併記) ほか)

(5) 広報宣伝事業

- ① メールマガジン(京都観光 M I C E ニュースレター)の発行**

当財団賛助会員や京都市観光協会会員に加え、商談会、視察、問合せなどで接触する国内外のミーティングプランナー、M I C E 主催者に対し、定期的に京都の観光 MICE 関連情報を発信することにより、京都での M I C E 開催を意識させ、京都への M I C E 誘致促進につなげるためメールマガジンの配信を実施した。

- ② ホームページによる京都における M I C E 関連情報の発信**

国内外の M I C E 主催者・参加者や事業者、加えて京都市内の大学関係者に対して、ホームページによる M I C E 開催都市「京都」の情報発信を行った。

(6) MICE関連情報の調査・収集・検討

① 情報の収集

観光庁、日本政府観光局(JNTO)、日本コンgres・コンベンション・ビューロー(JCCB)、ICCA (International Congress and Convention Association 国際会議協会)をはじめ関係団体との積極的な交流を図り、MICE関連情報の収集に努めた。

② 京都大学との協力による国際会議推進

「京都市と京都大学との国際学術都市としての魅力向上に関する連携協定書」(2015年8月締結)に基づき、京都大学と国際会議の誘致及び開催推進に関する協議などを継続して実施した。また、各学部の教授会や、研究支援組織の会合など、様々な機会を捉えて、支援施策のPRを行うとともに、情報収集に努めた。

③ 国際会議開催の機会を捉えた、地元との交流促進

2025年10月5日から国立京都国際会館で開催された「第22回科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム(STSフォーラム)」の地元歓迎レセプションにおいて、地元の大学生が制作した生け花や書の作品を展示することで、普段関わる機会が少ない国際会議参加者と学生が気軽に交流できる機会を創出した。



④ 統計調査・発行

国際会議統計「2024京都で開催された国際会議」発行
MICEの主催者や参加者等を対象とした実態調査を実施

⑤ 万博を契機とした海外ビジネス交流促進・ネットワーク構築

大阪・関西万博で、多くの企業関係者が大阪・関西を訪問する機会が増加する機を捉え、京都市、関係団体と連携し、訪問先の整備やPRツール制作、視察ツアーなどを実施し、地元企業との交流を促進した。(35件)

⑥ 環境に配慮したMICE開催に向けた取組

昨年度、京都市と連携し、主催者協力のもと、MICE開催時のCO2排出削減に向けた本格的な調査を実施し、WEB上に算出ツールの立ち上げ、脱炭素に向けたガイドライン・脱炭素に取り組むサプライヤーリストなどを公開した。本年度より、大規模国際コンベンション開催支援助成金では、カーボンオフセットに取り組むことが要件化され、その他助成制度においても3件の主催者がカーボンオフセットに取り組んでいる。

⑦ 観光庁事業「MICE開催地としての魅力向上事業」の実施

観光庁事業の採択を受け、他府県と連携したエクスクーショントアールを2025年10月27日～29日に開催した。本年度は、「KYOTO MICE TRADESHOW」のバイヤーに参加いただき、京都の魅力を活かすとともに滋賀県や奈良県と連携し、各地のオフサイトベニューや伝統文化を組み合わせ、付加価値の高いエクスクーションメニューを開発した。文化財や文化の保存・活用に貢献しながら、京都とは異なる魅力も組み合わせたMICE誘致を促進する取り組みを行い、滋賀県や奈良県との連携体制を構築することができた。



旧三井家下鴨別邸でのアペリティブパーティー 吉城園（奈良）での雅楽体験

（7）観光関連団体等との連携事業

以下の事業実施にあたり、事務局業務を担った。

① 大阪・関西万博に関する取り組み

2025年4月から10月まで開催された大阪・関西万博については、2023年5月にオール京都で結成された「大阪・関西万博きょうと推進委員会」の共同代表及び共同事務局として、京都府、京都市、京都商工会議所、京都知恵産業創造の森をはじめとする構成団体と連携し、京都産業の強みや府内各地の文化や観光資源などの魅力を国内外に広くアピールした。

また、当財団におけるMICE誘致事業や古典の日の普及事業、京都迎

賓館を通じた京都の魅力発信等を同推進委員会のアクションプランとして位置づけ、積極的に取り組んだ。

さらに、MICE商談会でのPRや、京都府内各地域の強みを生かした国際会議・エキスカーション等のMICE支援を行い、公開講座開催による市民との交流や学生の参画、環境への配慮を推進した。サステナブルなMICE都市の実現に向けた取り組みを促進し、万博を契機に京都を訪れる各国政府や企業・団体を受け入れた。



大阪・関西万博きょうと推進委員会主催「EXPO KYOTO MEETING」

(4月23日夢洲万博会場で開催)

② アートを通じた京都の魅力発信

2025年11月14日～16日に国立京都国際会館などで開催された国際アートフェア「Art Collaboration Kyoto (ACK)」に京都府などとともに参画し、国内外から72ギャラリーが出展し3万人が来場するなど、現代アートを通じた京都の魅力発信に取り組んだ。

また、京都府立植物園開園100周年を契機に令和6年度に初開催され、今年度も継続開催となった夜間アートイベント「LIGHT CYCLES KYOTO」に参画し、新たな夜間観光コンテンツの充実に寄与した。

2 国際観光事業（京都市観光協会との協働事業）

（1）海外情報発信・収集拠点の運営（京都市委託事業）

世界7都市（ニューヨーク、ロサンゼルス、ロンドン、パリ、シドニー、台北、上海）において情報拠点（レップ窓口）を設置し、現地の旅行動向などの情報を収集するとともに、マーケティングに基づいた京都観光のPR活動などを実施した。

（2）京都市域内統計収集・分析

京都市域のホテル115施設、旅館23施設の協力を得て、国・地域別の宿泊状況調査を毎月実施し、データ月報として発表した。また、日別の稼働

率調査や、数カ月先までの稼働率予測にも取り組んだ。さらに、世界最大のホテルデータサービス提供会社、STRとの連携のもと、客室平均単価(ADR)などの情報を国内外主要都市と比較するなどの情報分析を行った。

(3) 多言語ウェブサイトの運営（京都市補助事業）

外国人観光客向けに情報発信しているウェブサイトをリニューアルし、行祭事・イベント予定などの情報発信のほか、京都観光モラル・マナー、混雑緩和・分散観光、文化・芸術体験に係る情報の発信強化を行った。

(4) SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の運営

（京都市補助事業）

英語 Facebook 公式アカウント「Visit Kyoto」や、Instagram 公式アカウント「visit_kyoto」の京都観光公式アカウントにおいて、行祭事・イベント予定などの情報のほか、京都観光モラル・マナー、混雑緩和・分散観光、文化・芸術体験に係る情報などの発信を行った。また、中国向けには、Weiboに加えて、RED（中国版 Instagram）、Douyin（中国版 TikTok）、Wechat（中国版 LINE）上においても、発信を強化した。

(5) 海外メディア取材支援・ファムトリップ支援等

（京都市委託・補助事業）

海外有力メディア（新聞、雑誌、テレビ、WEB 等）の取材受入や、宿泊施設等が実施するファムトリップへの支援を行い、メディアなどへの効果的な露出を図るとともに、インフルエンサーを活用した SNS などでのプロモーションを実施した。実施にあたっては、直近の海外トレンドや京都市の状況を勘案し、京都観光モラル・マナー、混雑緩和・分散観光といった、サステナブル・ツーリズムの視点を重視し取り組んだ。

また、有力旅行媒体である Travel + Leisure へ広告を掲載するなど、京都のブランドイメージの向上を図った。

(6) 商談会出展（京都市委託事業）

海外で開催されている旅行商談会や展示会に出展し、京都の上質な観光コンテンツなどに関するプロモーションを行い、多くの顧客を有する海外の有力な旅行事業者やメディア関係者などに対する京都の魅力の訴求とネットワークの構築を図った。

2025年12月

ILTM Cannes（フランス・カンヌ）

2026年 1月 Travel & Adventure Show (アメリカ・NY)
2026年 3月 ITB Berlin (ドイツ・ベルリン)

(7) 京都市認定通訳ガイド認定・育成事業（京都市委託・補助事業）

京都観光の専門知識を身に付け、外国語で京都の奥深い魅力を伝えることができる京都市独自の通訳ガイド「京都市ビジターズホスト（KVH）」の新規募集（8期生）を行うとともに、7期生の認定・登録を行った。さらに、既存のKVH（1～6期生）を対象としたスキルアップ研修などを実施した。

また、KVHを活用し、京都観光モラルの実践につながるツアーコースなどの造成に取り組んだ。

(8) インバウンド向けコンテンツ造成支援事業（京都市補助事業）

令和3年11月に京都市観光協会が京都信用金庫と締結した連携協定に基づき、インバウンド向け観光コンテンツ造成支援プログラム「インバウンドイノベーション京都」を実施した。支援希望事業者35件申込みのうち3件を採択した。

また、インバウンドをテーマにした業界交流イベント「京都インバウンドカフェ」を6回にわたり開催し、事業者同士のネットワークづくりを促進しつつ、コンテンツ造成支援プログラムとの連携を図った。

3 広域プロモーション事業

(1) 宇治茶プレミアムブランド化事業

お茶の京都 DMO 及び茶業関係団体などが、これまでの宇治茶プレミアムブランド化（高付加価値化）に取り組んできたネットワークを生かし、宇治茶の魅力を発信し、国外における宇治茶ブランドの浸透を図るとともに、宇治茶産地への観光客流入、土産品販売による観光振興・域内経済の活性化が進められるよう取り組んだ。

(2) ゴルフツーリズム事業

2022年度、京都府や府内市町、京都府観光連盟、京都市観光協会、森の京都DMOなどと共に、2023年3月14日～16日まで宮崎にて開催された、アジアゴルフツーリズムコンベンションに参加し、同17日より20日まで実施された京都でのポストファムトリップを実施した。

本年度は、昨年度に引き続き、ファムトリップに参加したバイヤーとのネットワーク維持に努め、ツアー造成に係る情報提供を実施した。

Ⅲ 情報発信・連携事業（公益目的事業）

1 京都文化交流コンベンションビューロー通信の発行

当財団の1年間の活動状況を中心に、様々な有益な情報を掲載した会報誌を年4回（4月・7月・10月・1月）発行し、賛助会員及び関係団体に送付し、周知した。

2 関係団体との連携等

（1）文化に関するオール京都の取組

京都府・京都市・経済団体等オール京都で立ち上げた、文化庁京都移転の機運醸成等を図る推進母体である「文化庁京都移転プラットフォーム」から発展した「文化庁連携プラットフォーム」に引き続き参画し、京都府内で開催されたプロジェクトや広報発信等に連携・協力を行った。

（2）大阪・関西万博に関するオール京都の取組

2025年4月から10月まで開催された大阪・関西万博については、2023年5月にオール京都で結成された「大阪・関西万博きょうと推進委員会」の共同代表及び共同事務局として、京都府、京都市、京都商工会議所、京都知恵産業創造の森をはじめとする構成団体と連携し、京都産業の強みや府内各地の文化や観光資源などの魅力を国内外に広くアピールした。

また、当財団におけるMICE誘致事業や古典の日の普及、京都迎賓館を通した京都の魅力発信などを同推進委員会のアクションプランとして位置づけ取り組むなど、積極的に推進した。【再掲】



大阪・関西万博きょうと推進委員会主催「EXPO KYOTO MEETING」

（4月23日夢洲万博会場で開催）

(3)「花灯路」事業等の取組

関係団体と連携し、「京都・花灯路」や「京の七夕」に実行委員会の一員として参画し、民間事業者等による観光振興の支援に取り組んだ。

また、「時代祭行列」に、賛助会員から募集した行進者からなる隊列により参加した。時代祭は今年で130周年を迎えたことから、行列先頭で「奉祝130年」の横断幕を掲げて記念の機運を高めるとともに、平安建都1300年に向けた京都の発展と、「古典の日」をアピールした。



3 ホームページの内容充実等

文化交流事業の紹介や各種サービスの活用を促進するため、ホームページを随時更新し、発信を行うとともに、令和8年3月には財団のホームページのデザインを一新し、新たなページを設けるなどのリニューアルを実施した。

Ⅳ 共益・収益事業

1 賛助会員制度の運営

(1) 新規勧誘の促進

入会メリットなどを示し、積極的に勧誘を行ったところ、宿泊業を中心にものづくり系企業など14の企業に15口入会をいただいた。

賛助会員数 335件 506口（令和7年度末現在）

＜令和7年度＞	新規入会	14件	15口
	退会	24件	34口

差引 10件減 19口減

ア 新規加入会員（14件15口）

会 員 名
ホテル京都エミナース
Fuji Travel 株式会社
カルチュラル・エデュツーリズムカウンシル／株式会社ルウルウ商會
株式会社ショークン
カリグラフィー京都 知ふみ書道
一般社団法人日本和食ライフスタイリスト協会
コートヤード・バイ・マリオット京都四条烏丸（株式会社ジェイアール東海ホテルズ）
ホリデイ・イン京都五条
ハイアット プレイス 京都
Luxe Estate 株式会社（東山 四季花木）
東鮎（株式会社ミライトリンク）
フォーシーズンズ京都
紘
ハードロックカフェ京都

イ 退会会員（24件34口）

会 員 名
株式会社グラフィック
静家
寺子屋
Sharing Kyoto
ジェイアール東日本企画
株式会社 Yourbility Developers
菊水ガーデン
然林房
三越土地
玉栄タカギ
京都山科ホテル山楽
キッチン有限公司
株式会社和来堂
有限会社ティー・ケイ商事
株式会社スタイルズ（KIYOMIZU 京都東山）
一般社団法人日本和食ライフスタイリスト協会
京都観光施設協議会
株式会社アイビーインターナショナル
クレソン株式会社
京都ブライトンホテル
清水寺
株式会社呉竹荘 京乃宿 清水五条 呉竹荘
ギャグ・ワークス株式会社
有限会社フクオカ機業

ウ 賛助会員数の推移

年度別	会員数	□数
平成20年度末	264	384
平成21年度末	257	374
平成22年度末	255	367
平成23年度末	244	356
平成24年度末	289	507
平成25年度末	297	517
平成26年度末	337	562
平成27年度末	370	601
平成28年度末	398	629
平成29年度末	396	608
平成30年度末	385	591
令和元年度末	383	587
令和2年度末	362	536
令和3年度末	332	484
令和4年度末	335	525
令和5年度末	340	530
令和6年度末	345	525
令和7年度末	335	506

(2)「会員の集い」の開催

賛助会員間の情報交換・相互のネットワーク強化を目的として毎年開催している「会員の集い」を令和8年2月18日に開催した。多くの方にご参集をいただき、会場の至るところで交流の輪が広がった。

※参加者数 394名

2 京都迎賓館記念品の販売

京都迎賓館の通年公開に併せて、京都迎賓館で記念品の販売を実施した。

令和7年度は、京都迎賓館開館20周年を記念した、特別参観記念符の限定販売を行うなど販売強化にも積極的に取り組むとともに、引き続き、販売・管

理体制の改善に取り組んだ。

販売額については、令和 4 年度の清和院休憩所（京都迎賓館南側）開所に伴う販売所の移転により店舗面積が大幅に縮小した。以降、その影響を受けた状況が続いたが、今年度は開館 20 周年を迎え参観者数が増加する中で、特別参観記念符の企画・販売が奏功したことや、販売所前で商品を紹介する看板の掲示など販売促進の取組により、前年度を大幅に上回る販売額を達成した。

V 管 理 運 営

1 理事会の開催

(1) 第29回理事会

- ア 日 時 令和7年6月3日（火） 午前10時～11時
イ 会 場 ホテルオークラ京都 「翠雲」
ウ 出席者 理事11名、監事2名
エ 議 事 第1号議案 理事・監事の選任を評議員会に諮る件
第2号議案 令和6年度事業報告に関する件
第3号議案 令和6年度決算に関する件
第4号議案 令和7年度収支予算の補正に関する件
第5号議案 評議員会の開催に関する件

(2) 第30回理事会

- ア 日 時 令和8年3月3日（火） 午前10時～11時
イ 会 場 ホテルオークラ京都 「翠雲」
ウ 出席者 理事9名、監事2名
エ 議 事 第1号議案 顧問の選任に関する件
第2号議案 理事の選任を評議員会に諮る件
第3号議案 定款の一部改正を評議員会に諮る件
第4号議案 令和8年度事業計画に関する件
第5号議案 令和8年度収支予算に関する件
第6号議案 令和7年度収支予算の補正に関する件
第7号議案 賛助会員規程の一部改正に関する件
第8号議案 評議員会の開催に関する件

2 評議員会の開催

(1) 第29回評議員会

- ア 日 時 令和7年6月24日(火) 午後2時～3時
イ 会 場 ホテル日航プリンセス京都 「ヴィオラ」
ウ 出席者 評議員9名、専務理事1名、監事2名
エ 議 事 第1号議案 評議員の選任に関する件
第2号議案 評議員会長・評議員副会長に関する件
第3号議案 理事・監事の選任に関する件
第4号議案 令和6年度事業報告に関する件
第5号議案 令和6年度決算に関する件
第6号議案 令和7年度収支予算の補正に関する件

(2) 第30回評議員会

- ア 日 時 令和8年3月23日(月) 午前10時～11時
イ 会 場 ホテル日航プリンセス京都 「ヴィオラ」
ウ 出席者 評議員9名、専務理事1名、監事1名
エ 議 事 第1号議案 理事の選任に関する件
第2号議案 定款の一部改正に関する件
第3号議案 令和8年度事業計画に関する件
第4号議案 令和8年度収支予算に関する件
第5号議案 令和7年度収支予算の補正に関する件

令和7年度事業報告には、定款第8条第1項2号に規定する附属明細書は「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないため、作成しない。

公益財団法人 京都文化交流コンベンションビューロー